

責任ある研究開発の文化を醸成する —ELSI研修プログラムの開発と設計—

鹿野 祐介(大阪大学COデザインセンター
／ELSIセンター 特任助教)

2024年7月19日



背景

2020年 9月

大阪大学ELSIセンター × mercari R4D 共同研究 開始

RRIベストプラクティスの構築

- ・ 責任ある研究開発の推進
- ・ イノベーションの創出

2021年 6月

メルカリ『研究開発倫理指針』の改定

「当社は、研究者及び研究開発倫理審査委員会委員に対して、本指針の周知徹底を含む、責任ある研究・イノベーションに取り組むための教育等を実施する。」

(「倫理指針」当社の約束より)



ELSI研修 プログラムの 開発と設計

メルカリ、大阪大学ELSIセンターとの共同研究に基づき策定した独自の研究開発倫理指針を公開 | 株式会社メルカリ (mercari.com)

経緯

◆ 共同研究以前

➤ 研究公正・研究倫理教育の実施

共同研究を通じた転換

企業へのELSI・RRIの実装

研究開発倫理審査の位置づけの変更

◆ 共同研究以後

メルカリ的
カスタマイズ

➤ 「研究開発倫理審査の高度化」

- 倫理審査 × テクノロジーアセスメント
- R&Dガバナンスの構築・強化

【共同研究以前】 倫理審査項目

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 不正行為の防止 | 6. ダイバーシティの尊重・内包 |
| 2. 研究費の適正な使用 | 7. 個人情報保護 |
| 3. 環境・安全への配慮 | 8. 利益相反の適正なマネジメント |
| 4. 生命倫理の尊重、ヒトと技術の共生 | 9. その他 |
| 5. 契約の遵守、守秘義務 | |

【共同研究以後】 倫理審査項目

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| 1. 不正行為の防止 | 7. 個人情報の保護 |
| 2. 研究費の適正な使用 | 8. 多様なステークホルダーの包摂と熟議 |
| 3. 契約の遵守、守秘義務 | 9. 研究成果による潜在的なインパクトの認識と考慮 |
| 4. 利益相反の適正なマネジメント | 10. 研究成果発信とコミュニケーション |
| 5. 環境・社会への配慮 | 11. その他 |
| 6. 研究対象の保護 | |
| 1. 人権の尊重 | |
| 2. 安全・健康・福祉への配慮 | |

ELSI研修の設計と開発

◆ R4Dリサーチャーに向けたELSI教育

- ELSI・RRIへの理解醸成
- 「研究開発倫理指針」改定とねらいの共有
- テクノロジーアセスメントへの積極的参加

◆ 倫理審査委員に向けたELSI教育

- ELSI・RRIへの理解醸成
- 「研究開発倫理指針」改定とねらいの共有
- リサーチャーとの熟議への参加

ELSI研修

レクチャー	<ul style="list-style-type: none"> • ELSI・RRIに関する基礎知識 • メルカリ倫理審査のアップデート
ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> • 先端技術研究開発の影響評価

ELSIプレ研修

対象：R4D運営メンバー

Update

ELSI研修（日本語・英語）

対象：R4Dメンバー＋倫理審査委員

ELSI研修の設計と開発

ELSI研修

レクチャー

- ・「ELSIとは」(ELSIセンター提供)
- ・「研究開発倫理指針について」
- ・「R4Dにおける倫理審査とアップデート状況」



図：レクチャー「いま、なぜELSIを考える必要があるのか」

ワークショップ

- ・先端技術研究開発のインパクトアセスメント
テーマ：「空飛ぶpoimo」



図 1: アセスメント対象: 空を飛ぶ × poimo
(左: 「空を飛ぶ」のイメージ. 右: poimo © 東京大学 × mercari R4D)

アセスメントツール：「モラルITデッキ」



"Moral-IT Deck (Japanese version)" © 2023 by Yusuke Shikano, Eri Mizumachi, Konomi Higo & Kohei Takeda. is licensed under CC BY-NC-SA 4.0

責任ある研究開発文化の醸成に向けて

◆ 課題

- 年単位でリサーチャーや倫理審査委員の顔ぶれが変わる
- 「倫理審査は面倒、受けたくない」というリサーチャーの意識変容
- 倫理審査委員会の運営負担の軽減と簡易化

◆ 対策

- 人材流動に対応する〈ELSI研修〉の定期・継続実施
複合領域の横断にも
- 「倫理審査委員会」の役割の明確化とリスクアセスメントの棲み分け
- 「研究者が受けたい倫理審査」（熟議型研究開発アセスメント）の展望